



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第46号

2007.11.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

- －「自然賛歌」で観察会の様子を紹介
- －八幡湿原自然再生工事が進行

活動報告

- －キノコの観察会
- －寒曳山の植物観察会

観察会案内

- －紅葉の山でゴギの産卵観察会
- －千町原草原の保全活動
- －八幡高原の冬鳥
- －越冬する樹木の姿

おしらせ

●「自然賛歌」で観察会の様子が紹介されます

11月15日（木）19:54からの広島ホームテレビ『自然賛歌』で、西中国山地自然史研究会が行った観察会「寒曳山の植物観察会」の様子が紹介されます。どうぞご覧下さい。

●八幡湿原自然再生工事が進行しています

環境省が補助し、広島県が行う「八幡湿原自然再生事業」の工事が二川キャンプ場の近く、霧ヶ谷で進んでいます。これから事業地はどんどん姿を変えていきます。今の内に、今の姿を、ぜひ見ておいてください。

今後の観察会予定

- 11月11日 紅葉の山でゴギの産卵観察会
- 23日 千町原草原の保全活動
- 12月2日 八幡高原の冬鳥&越冬する樹木の姿
- 9日 冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで

歩こう」

- 1月20日 アニマルトラッキング
- 2月17日 スノートレッキング
- 3月9日 スノートレッキング

観 察 会 報 告

● キノコの観察会

開催日時：2007年10月20日（土）9:00

講師：山手万知子

今シーズン一番の冷え込みの中、年に一度のお楽しみ、キノコの観察会が始まりました。採取に出かける前に、山手先生よりキノコの採り方を教えていただきました。「くさっているもの」「若いキノコ」は採らないように、丁寧に全体を採るように、とのことでした。そのことを心にとめ、例年のようになりおの登山道をのぼりながら、キノコを探しました。見つけたものを皆で披露しながら歩きました。その中で「これはおもしろい!」と思ったのはミヤマタマゴタケです。地面に卵がある・・・と思ってしまうほど、とてもキノコだとは気づきませんでした。その他にも、カラマツ林に生え、ひだのところが黄色いハナイグチ、匂いが強烈なスポンタケ、抱えるほど大きなコフキササルノコシカケなど多くの種類のキノコが集まりました。持ち帰った後は、自然館の前で鑑定の始まりです。種類ごとに分けてみると、先生に名前をつけてもらったキノコはなんと40種類も集まっていたので驚きました。似た種類のキノコの見分け方をお話いただいたり、それぞれのキノコの特性を聞いたりしました。それから待ちに待ったお昼ごはんです。持ち帰ったキノコの中からは、ハナイグチ・ハツタケ・シリヌメリイグチ・アシグロタケ、それに八幡産のナメコ・シイタケが入ったかりお茶屋特製のキノコ汁を全員でいただきました。寒さで冷え切った体をあつあつのお汁が温めてくれ、キノコのうまみを十分に堪能しました。先生やキノコに詳しい参加者の方から専門的な話を聞くことができ、大変楽しい観察会となりました。自作のハガキを参加者全員に下させた日野さん、ありがとうございました。[こ]



カゴを片手に出発!! 左右に目をこらして、歩く。



笹に隠れるようにして生えているキノコも多かった。



ニボシの匂いがするよ、と教えていただきクンクン。いい出汁がでるそう。



キノコの見分け方をじっくりと説明する山手先生。参加者も熱心に聞いていた。



本日の食用分。



食事をしながら、キノコの話、気候の話など話題は尽きない。

写真を提供いただいた佐久間さん、ありがとうございました。

【みなさんの印象に残った物】

「ナガエノスギタケ(3).」「キノコが少なかった.」「たくさんのキノコを、採っても食べられるのは、少しなんだと驚きました。キノコの中で印象に残ったのはタマゴタケと、スッポンタケです.」「ハゴロモイタチタケ、キンチャクフウセンタケ、ハイムラサキフウセンタケ、を教えて頂いたこと.」「カラ松に生える”花猪口”をたくさん見られたこと.」「ハゴロモイタチタケ.」「ミヤマタマゴタケが生えているのを見たこと.」「スッポンタケ(3).」「寒かった.」「茸の名前を完全に覚えたのが3~4あります。これを忘れないうちに子供に伝えたいです.」「茸が少ない。山の上の方まで登った気分、登山したようでとても楽しい半日でした.」

【参加したみなさんの感想】

「キノコ→山登りも→キノコ汁.」「寒さを忘れるキノコ汁でした.」「汁がうまい.」「時期が難しい.」「寒かったのも手伝いキノコのお汁がとってもおいしかった。秋の山の散策の楽しみがまた増えました.」「いろんなキノコを見てキノコ汁のおいしかったこと！ありがとうございました.」「寒かったですが、キノコ汁のおいしさで温かさをホットとできました.」「キノコの発生が少なかった.」「いろいろなキノコが見られて良かったです.」「一つの山に様々なキノコが生育しているのを見て、改めて自然の多様性を実感できました.」「思っていたよりキノコが少なかった.」「ずっと上まで行ってみたい。下の方が多かったと思うけど.」「寒い中先生にご苦労掛けてありがとうございました.」

観 察 会 報 告

● 寒曳山の植物観察会

開催日時：2007年10月21日（日）9:30

講師：佐久間智子

朝は冷え込んで風も冷たいくらいでした。集合場所のわさー大朝から寒曳山スキー場の駐車場へ移動し、おおまかなルートの説明があった後、20名でゲレンデ内を散策しながら登り始めました。スキーシーズン準備のためスキーが刈り取られ、その他の植物も紅葉したり種になっていたりと、いつもと趣の違う観察会でした。それでもゲレンデのそこそこにセンブリが咲き、それだけでみんな感激でした。センボンヤリの春の解放花と秋の閉鎖花の話では、各々が種子の話で先生に質問攻めの場面もありました。紫の濃いリンドウを見つけると我も我もと写真撮影、真っ赤なアリノトウグサも可愛らしく咲いていました。ゲレンデを終えて稜線に入ると、道が狭いために一列になってしまい、後ろの方は先生のお話が聞こえにくい場面もありましたが、コマユミ・ミヤマガマズミ・コバノガマズミの赤い実。シラヤマギク・リュウノウギク・ガンクビソウ・ツリガネニンジンなど観察できました。山頂は晴れ渡り気持ちの良い昼食時間でした。てんぐ岩まで観察し、引き返してゲレンデを再び下山。大変な急斜面をみんな必死で降りて、オオイワカガミ・キクバヤマボクチ・オケラなど見ました。まとめをして確認すると、植物約40種、動物約10種が観察されていました。ゆったりとしたペースの中、セイヨウオオマルハナバチの話や温暖化の話が出たり、ホオジロの羽の残骸から調理をする猛禽類の話など幅広い観察会でした。[や]



いざ、登るぞ。



植物を取り囲んでメモ、または撮影順番待ち。



たくさんのセンブリに感激。



これはイヌコウジュかヒメジソか？先生の説明を聞く。



行きは良い良い。帰りは...かなりの斜面をジグザグに降りる。



クマのフン。かなり古い。センチコガネが育っている。



クリに今年のクマ糞あり。

【みなさんの印象に残った物】

「いろいろな人の話が楽しかった。」「ゆっくり草花を見ることがよかった。」「センブリがあちこちみられたこと。スロープを歩いて歩いて足がガクガクしたこと。」「センブリ、風、クマのフン→センチコガネ、ピラカンサ・ナナカマド・カンボク（含まれる毒）。」「センブリ(3)。」「山なみを見ながらゆっくりと植物かんさつ楽しかったです。」「天気も良いし最高。」「センブリとイワカガミ。斜面降り。」「センブリ、ノスリ。」「説明の良さ。」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「この時期の植物の資料があれば、より効果的ではないでしょうか。」「天気が良かった。」「天候に恵まれ、植物だけでなく鳥や虫クマ糞等広い範囲におしえていただき、楽しく有意義な一日でした。ありがとうございました。」「ひさしぶりで楽しい時間をすごしました。又参加したい思いがしました。」「説明が動・植物共にくわしくしていただきありがとうございました。」「いつも登る山がしっかり（楽しく）見えるようになりました。」「とてもわかりやすくよかった。」「植物刈られていて少なく残念。」「もう少し早い時期がいいかな？」「天気が良く展望も良かった。」「楽しい一日でした。」「佐久間先生の名調子に感激です。」「天気もよく、気持ちいい観察会でした。ありがとうございました。」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 紅葉の山でゴギの産卵観察会

開催日時：2007年11月11日(日) 9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、弁当、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

西中国山地自然史研究会では、毎年10月にサツキマスの産卵を観察し続けてきましたが、今年はゴギの産卵を観察します。ゴギはサツキマス(アマゴ)と同じサケ科の魚ですが、アマゴより上流の細い川に生息します。また、産卵もサツキマスよりずいぶん遅く、秋が深まり、冬の気配が色濃くなったころになります。寒くなる可能性があるため、十分に防寒対策を整えて参加してください。

● 千町原草原の保全活動

開催日時：2007年11月23日(金) 8:00
集合場所：高原の自然館
準備：作業セット、弁当
参加費：無料

かつて、千町原では広々とした草原に、マツムシソウやワレモコウ、ユウスゲなどが咲いていたようですが、いまはそうした草花が咲く場所はほんのわずかになってしまいました。樹木の生長を抑制し、草原の景観と生態系をとりもどす作業に、どうぞご参加ください。また、4才から10才までの子どもたちには、刈り取っ

た草を使いながら草原や環境の大切さについて学ぶ「キッズプログラム」を用意しております。

● 八幡高原の冬鳥

開催日時：2007年12月2日(日) 8:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡、フィールドスコープ
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

本格的な冬の到来とともに、八幡高原には様々な渡り鳥がやってきます。山や草原に植物が少ない冬、鳥たちはどんなものを食べ、どんな生活をしているのでしょうか？寒さが予想されますので、防寒対策をおねがいします。

● 越冬する樹木の姿

開催日時：2007年12月2日(日) 13:00
集合場所：高原の自然館
講師：斉藤隆登
準備：基本セット、ルーペ
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

冬鳥の観察会に引き続き、厳しい冬を越す樹木の観察会です。どんな姿で冬に備え春を待っているのでしょうか。冬ならではの樹木の姿を観察します。こちらも寒さ対策万全でお越し下さいね。

八幡の秋はまもなく、コナラの黄葉で、サクラやカエデの紅葉に続くもう一つのピークを迎えます。黄葉の終わった千町原で草刈りをすれば、自然館は冬の眠りに入ります。シーズンの始めに「これをやろう」「ここをガンバロウ」と考えたことのうち、達成できたことは半分もないように感じますが、無事にこの季節を迎えられたことが何よりかな、と思います。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info